

豊田発 オーガニック茶



末野原で始めた環境に配慮したお茶栽培、下山で農薬を使用しない日本初の有機JAS認証抹茶が誕生

愛環「末野原」駅から近い場所に、ばかりと開けた茶畠があるのはご存知ですか？ 家族4人でお茶の生産業を営む「いしかわ製茶」は、トヨタ自動車がまだ豊田に創業する前の昭和8年にこの地に開園しました。

現在いしかわ製茶の代表を務めるのは三代目の石川龍樹さん。初代が末野原に茶畠を開いた後、志半ばで急逝。その頃まだ学生だった二代目は、お茶の散布に疑問を感じたそう。「当時父は、農薬散布で害虫だけではなく、他の虫まで死んでいく様子を見て農薬が決して良いものではないと感じたみたいですね」と語る龍樹さん。その頃、国鉄岡多線（現在の愛知環状鉄道）の開通整備に伴い、茶畠の一部を手放すことに。時にこの地に開園しました。

二代目が標高650mの下山エリアに茶園を開拓。40年以上前の開拓當時から一切の農薬を使用していない畠は本当に貴重なんだとか

と思つていたからです」と龍樹さんは言います。

昭和から平成にかわり、世の中で「残留農薬」が問題視されるようになつた頃、農薬や化学肥料に頼らない有機農法である「オーガニック栽培」が世間で囁かれるようになりました。オーガニックとは、そもそも地球環境を守るという目的で広がった欧州発の市民運動です。それはまさに、二代目が長年思い続けてきた理念と同じものでした。そして平成15年、一切農薬不使用のいしかわ製茶の抹茶が、日本で初めて有機JAS認証を取得。さらには、オーガニックへの取り組みや、下山地区にオーガニックの農法を広めた功績が認められ、平成20年度内閣総理大臣賞を受賞しました。



二代目が標高650mの下山エリアに茶園を開拓。40年以上前の開拓當時から一切の農薬を使用していない畠は本当に貴重なんだとか

「祖父がお茶農家を始めて末野原を開墾し、父が下山に畠を開いてオーガニックのお茶を広めたので、今度は自分が自慢のお茶を世界に広げたいです」と言う龍樹さんは、自身が良いと思うものを世界や次世代へ繋げたいと語ります。



平成20年度「内閣総理大臣賞」、平成24年・29年「農林水産大臣賞」（てん茶の部）、令和元年度「日本農業賞大賞」など、過去数々の賞を受賞

初代が茶畠開園、二代目がオーガニック茶を確立
そして、三代目は世界各国で自家製茶をPR

数多くの品評会で高い評価を得ているいしかわ製茶のお茶ですが、日本国内でオーガニックといえばまだ「値段が高い」意識が高い人のもの」というイメージが根強く、ジレーヌを抱いていた三代目の龍樹さん。そこで、SNSやブログを活用して世界に発信することに。地道な情報発信が功を奏し、イギリスのお茶専門店から注文が入りました。「たった2kgのオーダーでしたが、いしかわ製茶のラベルを付けたお茶が海を渡りました」と龍樹さん。世界各地の店にお茶を卸し、信頼を積み重ねた結果、海外での販売数はうなぎ登り。念願だったオーガニック文化最先端国ドイツでの販売契約も結ぶことができました。平成30年からは国際的ショウ事業に参加。世界各国を巡っていしかわ製茶の魅力を紹介しました。龍樹さんは「お世話になつたドイツの卸先の方にも直接会つてお礼をすることができました」と海外でのことを楽しそうに振り返ります。

「いしかわ製茶」の海外プロモーション！

ORGANIC GREEN TEA & MATCHA

UAE オーストリア スイス ドイツ

フランス（パリ）のユネスコ本部で開かれた茶会では、裏千家パリ支部がいしかわ製茶の抹茶で御点前。石川さん自身も抹茶の石臼碾きを実演。その様子に海外の人は興味津々♪



いしかわ製茶
豊田市豊栄町9-48 TEL 0565-28-4021
※商品は「おいでん市場」「JA直営プラザ」などで購入できます。